地域住民主体の諸活動の特徴と交流プロセスおよび利用者や施設との関係

小島　麗[1]・遠藤　孝夫[2]・鹿田　正昭[3]

[1]学生会員　金沢工業大学大学院　工学研究科環境土木工学専攻（〒921-8501石川県野々市町扇が丘7-1）
E-mail:a6300168@venus.kanazawa-it.ac.jp
[2]正会員　博(工)　金沢工業大学助教授　環境・建築学部環境系環境土木工学科（同上）
E-mail:endo@neptune.kanazawa-it.ac.jp
[3]正会員　工博　金沢工業大学教授　環境・建築学部環境系環境土木工学科（同上）

公的施設の整備において，地域住民主体の諸活動や地域住民の多様性を配慮した方法を検討すべきである．そこで，本研究では様々な施設，諸活動，地域住民の三者の特徴に関する項目を捉えた．各項目は，地域住民が活動に参加する際に考慮するものを挙げた．項目の特徴から，地域住民と諸活動の項目間の関係，様々な施設と活動の項目間の関係を明らかにし，諸活動を中心に三者の関係を検討した．また，地域住民が主体となる諸活動の例を挙げることによって，場所や時間などの特徴が類似している活動・行動をグループ化するとともに，地域住民が諸活動を通じて交流を深める基本的な過程が示された．

Key Words : *community facilities, various activities, lifelong study, local residents, process of exchange*

1．はじめに

近年，生活の充実に資する様々な生涯学習活動が，自治体や企業などによって運営されており，人々の関心が高まっている．こうした活動を通じて，余暇時間の充実が実現できたり，希薄になっている地域住民の交流の機会を得ることができる．

様々な活動で利用される公的施設は，多くの地域住民が利用している．しかし，公的施設の整備にあたっては，必ずしも地域住民の多様性や様々な活動の特徴などが充分に考慮されていないことが考えられる．諸活動で利用される施設の整備は，地域住民のライフスタイルや活動参加に対する考え方，様々な活動の特徴を配慮した方法を検討すべきである．

地域住民が諸活動において様々な施設を利用する場合を念頭に，様々な施設，諸活動，地域住民，それぞれの特徴を把握する．さらに相互の関係を明らかにする．また，活動を通じて交流が深まる過程を考える．

2．研究方法

(1) 対象地域の特徴（野々市町，2002）

石川県野々市町全域（13.56km²）を対象とする．野々市町は，人口41,549人・世帯数15,994世帯（平成13年3月31日現在）で，金沢市の南に位置し，松任市・鶴来町に隣接している．住民は金沢市をはじめ周辺市町村へも通勤・通学しており，住宅系用途地域が都市計画区域の67.3%を占めている．

対象とする施設は，多くの地域住民が諸活動に利用する可能性のある施設とし，主に公的施設が挙げられる（表1）．本研究では野々市町住民を主対象に研究を進める．

(2) 方法

a) 様々な施設

施設の立地や機能・サービスといった特徴について，地域住民主体の諸活動で利用する際に考慮する項目の関係を明確にする．

b) 諸活動

諸活動の内容，費用，時間などの特徴について，

表-1　対象施設の種類と特徴

施設の種類	数	施設の特徴（活動参加の可能性の観点から）
幼稚園・保育園	14	町内に多数存在しており、小学校入学までの子供が利用するので子供同士の活動の他、保護者との活動また保護者同士の活動も見込まれる。
小学校・中学校	7	各学区に配置されているため住民が利用しやすく、児童生徒だけの利用ではなく保護者等の会議の場としての役割、サークル活動の場所として使用されている。
高校・各種学校・短大・大学	5	野々市町に各施設とも数は多くないが、イベントなどの活動で生徒・学生だけではなく地域住民が利用する可能性がある。
公園	88	街区公園から総合公園、緑地までと種類が多い。個人での利用も可能で活動目的は様々。
公民館	48	各町内または住宅地ごとに配置されており地域の会議などで使用されている。特に大きな公民館ではサークル活動に利用されている。
公共施設	14	町役場などのほか、青少年センター、働く婦人の家などの町民利用施設。
運動・スポーツ施設	11	スポーツを主な目的とした施設。各施設ではサークルなどが活動が行われている。
文化的施設	4	図書館や文化会館など。特に大ホールのある文化会館では、催し物の開催があり住民の利用が多い。
老人介護施設	10	デイケアセンターなどで利用者が活動を行う事ができる。
児童館	3	子供同士の遊戯活動ができる。

表-2　主要公共施設におけるサークル活動の例

	活動場所	主なサークルの種類	コース数
文化的サークル	野々市公民館	茶道, 囲碁, 太極拳, フラワーアレンジ, 読書	37
	女性センター	詩吟, 体操, ヨーガ	20
	富奥公民館	着付, 書道, 手話	13
	郷公民館	民舞, 編物, カラオケ	13
	押野公民館	生花, 写真	10
	青少年センター	大正琴	1
スポーツサークル	スポーツセンター	バウンドテニス, エアロビクス	11
	町民体育館	トランポリン, 軽スポーツ	9
	小学校(4校)	バレーボール, ソフトボール	11
	中学校(2校)	サッカー, バトミントン	3
	勤労者体育センター	空手道, 少林寺拳法	2
	文化会館	ウォーキング, ジョギング	2
	スポーツランド	水泳, 水中エアロビクス	2
	としよりと子供の広場	パークゴルフ	1
	白山麓スキー場	スノーボード	1
	野々市中央公園	ソフトボール	1

表-3 公共施設の利用状況（野々市，2002）

	施設名	年間利用者(人)
文化的施設	中央公民館	62,056
	富奥公民館	16,670
	郷公民館	8,858
	押野公民館	9,300
	町民研修センター	843
	ふれあい会館	8,218
	青少年センター	4,132
	働く婦人の家	9,509
スポーツ施設	町民体育館	55,149
	町民野球場	13,041
	中央公園テニスコート	3,467
	中央公園運動広場	8,602
	健康広場	4,506
	簡易運動場	16,721
	勤労者体育センター	23,687
	押野中央公園運動広場	2,576
	スポーツセンター	65,303

地域住民が諸活動に参加する際の考慮項目の関係を明確にする．また，活動や日常生活行動の具体例を挙げ，行われる可能性のある内容を記述し，各活動・行動を場所，時間，地縁などの観点から特徴が類似している活動をグループ化する．

c) 地域住民（利用者）

地域住民が諸活動に参加する際に配慮すると考えられる交通手段，利用可能な時間，活動に関する情報など活動参加の可能性と容易性に関する項目について関係を明確にする．

d) 様々な施設と諸活動と地域住民の関係

様々な施設，諸活動，地域住民の三者の関係を検討するにあたり，まず利用者と活動の項目間の対応関係，次に施設と活動の項目間の対応関係を見出す．諸活動の特徴は，地域住民にとって利用施設を選択する要因になるので，利用者がどのような活動をする時にどのような施設を選ぶのか具体的に考える．そうして，活動を中心とした三者の関係を総合的に把握する．

e) 活動における交流のプロセス

様々な活動において交流が深まっていく流れを考える．次に，流れを段階的に捉え，さまざまな活動に当てはまるように順序を整える．

3．結果

(1) 対象地域におけるサークルと施設の状況

a) 野々市町におけるサークル活動

現在野々市町で行われている主なサークル活動を表2に示した．野々市町の主な公共施設で行われているサークルの種類は69種類あり，時間帯や活動場所別に137コースがある．

b) 施設利用者数

表3は対象地域にある公的施設の年間利用者数である．文化的施設では，サークル活動の場所として頻繁に利用されている公民館が多く，スポーツ施設はサークルの利用は勿論，個人での利用も可能なため利用者数が多いと考えられる．施設利用者数は，野々市町住民が大部分を占めているものの，他市町村の住民も含まれていると考えられる．

(2) 様々な施設　（図1）

施設の立地や機能・サービスといった特徴について，地域住民主体の諸活動で利用する際に考慮する項目の関係が以下のように明らかになった．

施設立地に関して考慮される項目としては，地理空間的な位置を指す所在地と，周辺の施設立地状況が考えられる．周辺の施設立地状況としては，次の3項目が挙げられる．第一は，周辺に立地している施設の多様性である．公民館への行き来の途中で買い物に寄れるなど，利用しようとしている施設付近に他の活動・行動が行える施設があると利便性が高まる．第二は，内容が関連している施設の立地状況である．例えば，小学校の付近に児童館が所在していると児童が施設に行きやすい利点がある．第三に，バス停や駅からの近さ，施設付属のものを含めた付近の駐車場の整備状況がある．

機能・サービスといった内容は，設備，営業時間，専門的な活動を行う際に指導してくれる職員の有無，施設利用費といった項目からなる．さらに設備に関

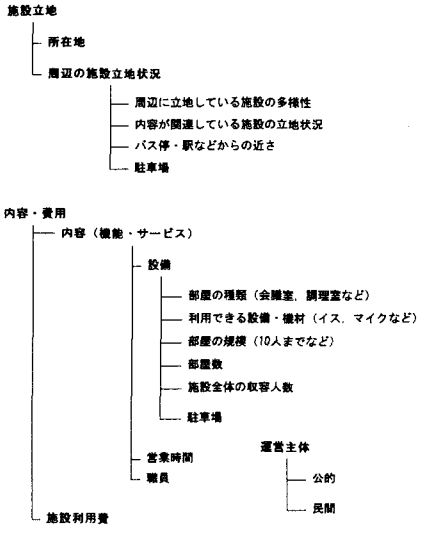

図-1 地域住民主体の諸活動で様々な施設を利用する際に考慮する項目

する項目には，部屋の種類，利用できる設備・機材，部屋の規模，部屋数，施設全体の収容人数，駐車場がある．運営主体は，公共機関が運営している施設か，民間が運営している施設かの違いを指す．

(3) 諸活動の特徴 （図2）

地域住民が主体の諸活動に参加する際の考慮項目には，以下のような項目が挙げられる．活動内容は，活動の種類といった内容と活動のコース分けの2項目からなる．活動費用は，受講費や材料費といった活動内容そのものにかけられる費用と施設利用費の合計である．活動時間には，活動を行う時間帯，活動の正味時間と準備や片付けに必要な時間の和からなる活動の所要時間，頻度の項目がある．活動形態は3つの項目からなる．まず，活動を一緒に行う人数の多寡が挙げられる．次に，活動を行う形式には参加活動形式か講義聴講形式の別がある．そして，活動が定期的に行われているか，そうでない単発的な活動がある．活動場所は，活動の内容と形態によって異なる．

参加者の集め方は，地域の清掃活動などの地域社会で必要な活動か，参加者が自主的に参加したいと思って参加する活動といった違いがある．

(4) 諸活動の関係 （図3）

図3左上に記載されている場所が設定されている活動から見ていく．文化系の活動を行う機会として，

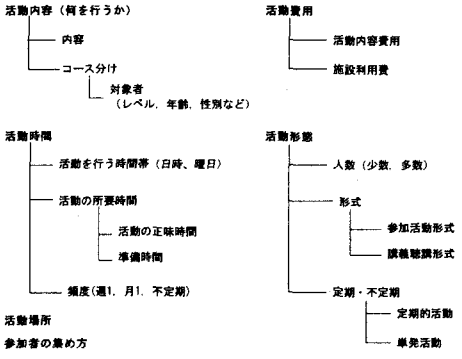

図-2 地域住民が主体の諸活動に参加する際の考慮項目

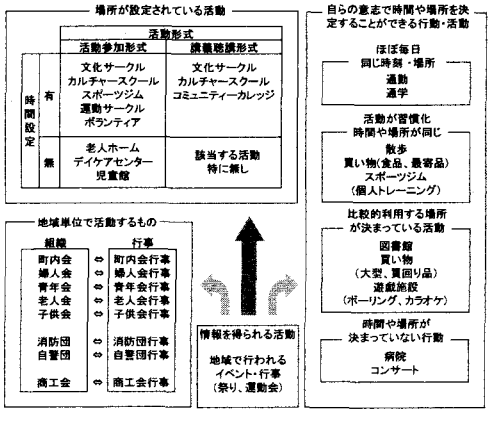

図-3 地域住民が主体となる活動・日常行動の関係

文化サークルとカルチャースクールがある．野々市町の場合，講義聴講形式の活動はコミュニティーカレッジで行っている．スポーツ系の活動を行う機会として，運動サークルとスポーツジムがある．清掃活動などのボランティア活動も活動参加形式に含まれる．以上の諸活動は，サークルは活動の時間帯が決まっていたり，ボランティア活動は一斉に開始するといったように，時間設定がある活動である．デイケアセンターでは，施設に集まった参加者と会話を楽しんだりすることができる．老人ホームや児童館での活動にも，時間設定は特にない．

次に，図3右に記載されている自らの意志で時間や場所を決定することができる行動・活動を見る．通勤や通学は，ほぼ毎日同じ時間・場所を利用する行動である．散歩や日常品の買い物行動は，習慣化していて時間や場所がほぼ同じである．図書館や遊戯施設などにおける活動は，比較的利用する場所が決まっている活動である．病院へ行くなどといった行動は，時間や場所が決まっていない．これらの行

動・活動は，時間や場所が明確に決められていないが，一人一人の日常行動や習慣において時間や場所が一致すると，地域住民同士が活動や行動を共にするきっかけになる可能性がある．

次に，図3左下に記載されている地域単位で活動するものを見る．町内会や婦人会などは町内に住んでいる対象住民の組織で，その組織が主体となって様々な活動を行う．地域単位で活動するこれらの組織では，会合や行事とその準備などの活動を通じて，地域住民同士が知り合う機会となりうる．

次に，図3下部中央に記載されている情報を得られる活動を見る．地域で行われる祭りや運動会などを通じて，他の活動の情報を得ることかできる可能性がある．得られる活動の情報は，特に場所が設定されている活動では，活動場所の情報がないと参加できないので，情報源として大きな役割を果たす可能性がある．

(5) 地域住民 (図4)

活動参加可能性は活動へ参加する際の条件や制約に関する諸項目が含まれ，活動への参加のしやすさには活動参加への心構えに影響する項目が含まれる．活動参加可能性はアクセシビリティー，日常生活，個人の属性に関する諸項目から考えられる．活動への参加のしやすさは，活動に関する情報，家族構成，趣味活動，活動の現状，活動の捉え方に関する諸項目から考えられる．

アクセシビリティーは総移動時間と交通手段と普段の生活行動圏によって考慮される．

総移動時間は利用者の居住地または勤務地などから施設までに要する時間を意味し，移動時間とバス停や駅までに要する時間と待ち時間の合計である．

交通手段には，徒歩・自転車，バイク・自動車，電車，一般路線バス・コミュニティーバスなどと，タクシーが挙げられる．電車・一般路線バス・コミュニティーバスなどの公共交通は，停留所・駅，運行ルート，運行間隔，費用などを考慮する必要がある．

普段の生活行動圏は，日常生活で行動する地理空間的な範囲である．

日常生活に関する項目としては，利用可能な時間と利用可能な金額がある．利用可能な時間は，活動に参加できる曜日や時間帯を意味する利用可能な時間帯と，活動の正味時間と準備や片付け時間と移動時間の合計と比較される活動可能時間の2項目からなる．利用可能な金額は交通にかかる費用と，施設利用費と活動内容費の合計である活動費の2項目からなる．

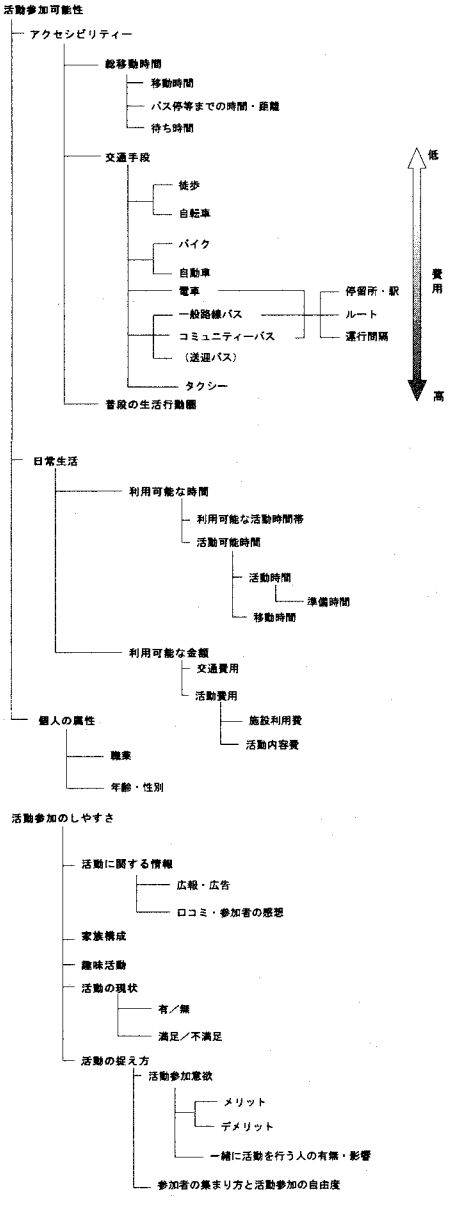

図-4 活動参加の可能性と容易性に関する項目

個人の属性は，会社員・主婦・学生などの職業の別と，年齢や性別からなる．これらは活動可能な時間や生活圏の違いに関係し，特定の属性を対象とした活動への参加の可能性に関わる．

活動に関する情報という項目には，活動に関する情報が得られる広報や広告と，具体的な活動の内容を知ることができ，実情を知ることができる口コ

ミ・参加者の感想が含まれる．

家族構成によっては，家族から情報を得たり，ほかの家族の行事や活動に一緒に参加することによって活動へ参加しやすかったり機会を得やすい．

趣味活動は，自分の興味のあることに結び付けて参加しやすく，趣味活動の内容に応じて参加する活動を選択できることが考えられる．

活動の現状は，現在の活動の有無，活動の現状に対する満足・不満足から把握できる．

活動参加意欲は，活動に参加することによって得られるメリットあるいはデメリットと，一緒に活動を行う人の有無・影響によって左右される．

参加者の集まり方と活動参加の自由度は，地域社会から参加を求められる場合か，自由な意思で参加する場合かといった違いを指す．

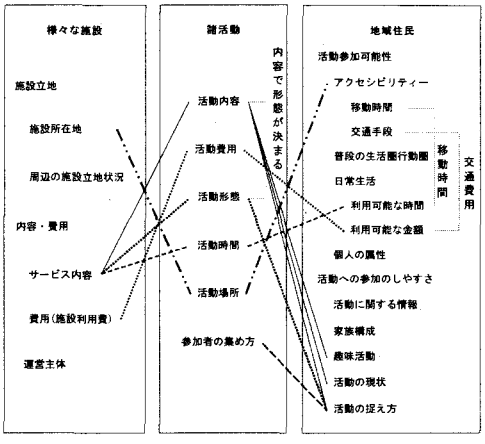

図-5 諸活動と施設と地域住民に関する各項目の関係

(6) 各要因の関係と分析の視点（図5）

様々な施設，諸活動，地域住民からの観点で参加する可能性や活動のしやすさに関する要因をまとめた結果，要因同士の関係が見える．

a) 人が活動のために問題なく移動できる距離を規定する条件

地域住民が参加可能な諸活動を検討するとき，総移動時間と交通手段と普段の生活行動圏が関係するアクセシビリティーを考慮に入れて，活動場所を選好しているものと考えられる．居住地から施設までの総移動時間と利用する交通手段は互いに関係があり，同時に検討される．総移動時間は利用可能な時間の制約を受け，交通手段は費用の観点から利用可能な金額の制約を受ける．諸活動の活動場所は，施設の所在地に対応し，駐車場などの周辺の施設立地状況も関係する．

b) 人が活動に使用できる金額

利用可能な金額を目安にして，活動費用を評価するものと考えられる．まず活動費用として示される活動内容費と施設利用費が検討される．施設利用費は，様々な施設によって異なる．実際にかかる費用としては，交通費用も考慮する必要がある．

c) 人が活動に参加できる時間帯

利用可能な時間を目安にして，活動時間に基づいた参加可能性が評価される．諸活動の活動時間は，様々な施設における営業時間の制約を受ける．実際にかかる時間を見積るとき，移動時間も考慮する必要がある．加えて，活動時間帯が利用可能な時間帯の範囲内に収まることが活動参加の要件となる．

d) 人が活動したいと思う内容

趣味と活動内容が一致していたり類似性が高いと，活動に参加しやすくなると考えられる．現状で活動に参加していて満足度が高ければ，活動を継続したり，さらに他の活動へ参加することにつながる可能性がある．活動内容を通じて，関心がある分野の知識が高まるなどといったメリットが得られそうならば，活動参加への意欲が湧く．活動参加への意欲は活動の捉え方に関する主要な項目である．また，活動内容によって，施設の利用できる機能や規模などを考慮する必要があると考えられる．

e) 活動形態や参加者の集め方からみる活動への参加のしやすさ

定期・不定期の別を含んだ活動形態は活動への参加のしやすさと関係がある．特に定期的な活動に参加する際には，さらに一緒に活動に参加する人がいるかや，参加者との関係も考慮される場合がある．地域社会から参加を求められる場合か，自由な意思で参加する場合かといった参加者の集め方の違いは，活動参加の捉え方に関係する．また，活動の形態によって使用する施設の設備に関する内容を考慮する必要がある．

(7) 様々な活動における交流プロセス（図6）

活動に参加したいという意思・意欲がある場合は，参加を検討するために活動情報を入手しようと行動する．一方，活動情報に接することによって，参加を検討しようという意欲が湧く可能性がある．このように，活動の情報と参加の意思・意欲には相互に関連がある．活動の情報を基に条件が一致した場合は，次のステップである活動への参加に進む可能性が高まる．

実際に活動へ参加することによって，顔見知りに

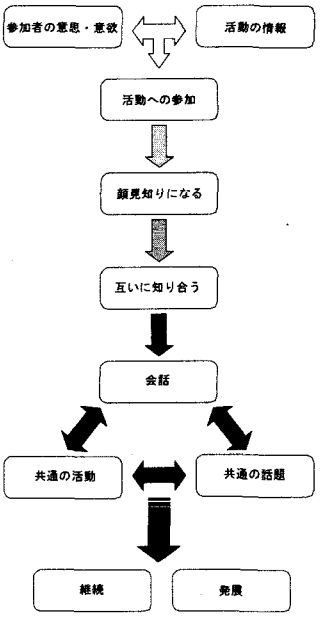

図-6 諸活動における交流が深まる各段階のプロセス

なるステップでは，他の参加者にどのような人がいるか把握することができる．その次の互いに知り合うステップでは，言葉を交わしたり，互いの名前が分かるような知り合いになる．

会話を交わすことによって共通の話題を見つけ，さらに共通の活動を通じて親密度が深まる．これらのステップは一方向ではない．

ここまでの過程を経て，参加者の中によく会話をしたり親密さを増した人がでてくるので活動が継続される可能性が高まる．さらに他の活動へ参加することにつながる可能性がある．

一連の過程を通じて，参加者同士の交流が深まる．活動によっては，ステップを飛ばして進んでいく場合もあるが，活動を通じて交流を深める基本的な過程が示された．

4. おわりに

今後の課題を以下に記述する．本研究の成果に基づいて，様々な施設，諸活動，地域住民の三者に関する調査方法を考え実施する．様々な地域住民が参加する諸活動で利用される施設整備の在り方に対する，アクセシビリティー，費用，時間，内容，捉え方などの視点からの評価方法を検討する．その方法によって，石川県野々市町を対象に施設整備の現状を評価する．多くの場合，対象施設は人口による重み付けで配置されているが，年齢，性別，職業の違いなど人口の構成を施設整備計画に反映させる．また諸活動に関する地域の特徴や地域住民の好みを考慮して，活動や施設の整備・充実を計る必要がある．

参考文献

1) 野々市町；野々市町統計書平成13年度, 189pp., 2002.
2) 野々市町教育委員会スポーツ振興課；スポーツガイドのいち, 7pp., 2002.
3) 野々市町総務課；町民便利帳　2002, 28pp., 2002

THE FEATURES OF VARIOUS ACTIVITIES OF LOCAL RESIDENTS, PROCESS OF EXCHANGE, AND RELATIONS BETWEEN COMMUNITY FACILITIES AND USERS

Rei KOJIMA, Takao ENDO and Masaaki SHIKADA

Planning method of improving community facilities should be discussed taking into consideration various local residents and activities.

In this study, items relating to the features of local residents, various activities, and community facilities were considered. The items which local residents take into consideration when they participate in activities were picked up.

Based on features of each items, relations among community facilities, various activities, and local residents were clarified by focusing correspondence of local residents with various activities and that of community facilities with various activities.